

# 「スピルバーグのグレムリンと松田優作のブラック・レイン」の関係

みなさん、夏期連休工事にご協力頂き、誠にありがとうございました。

お蔭様で無事故で作業を完了することが出来ました。

最終日には夕方から突発で、「6600V、350Kw、6Pの巨大モーターが焼損したので、至急復旧をたのむ！」という緊急連絡がお客様から入り、私と佐野ツチと浜ちゃんまで連休工事の大トリを取らせていただき、スピーディーに復旧させ、作戦完了！工場の方にも大変喜んでいただきました。

作業が終了したのが夜の10時くらいだったんですが、帰りの車の中で黒くなった手を見てしみじみ思ったことは、いくら不況とはいっても、やはりマクロ経済と我々のような中小企業のミクロ経済は違うということで、我々が仕事が減っているのはアメリカの影響よりも、我々を必要としてくれているお客様のところまで、我々の名前を、仕事内容を、技術にかける思いを、安全に対する誓いを、届けていないからではなからうか？

百年に1度どうしたとかの問題も確かに大きいけれど、仕事の仕方、仕事に対する熱意の問題のほうがもっと大きな問題なのではないかと感じました。

我々は何かが上手く行かない時、外に問題要因を探しがちですが、根本的な打開策というものは、実は自分の内部に存在していて、自分自身であえて見ようとしな部分にあるような気がします。

人が自分自身を変えようとする時、突然、心の裏側に隠れていたもう一人の自分が現れ、「やめとけ、やめとけ、無駄じゃ、無駄じゃ」、「百年に1度の不況に、何をやったところで、取り越し苦労じゃ」「お前のヘタクソな営業トークじゃあ、お客さんを怒らせるだけじゃ」などと頭の中で、所狭しと叫びまわります。

このもう一人の自分のことをコーチングの世界では「グレムリン」と呼ぶそうです。あのスピルバーグ監督の映画「グレムリン」から引用し、「人の心の内側で自己制限的な考えを吹き込む臆病な小動物」という意味で使用しているそうです。

一度「グレムリン」と名づけてしまうと、いかにたくさんの「グレムリン」が自分の頭の中で活動しているか、わかるのでしょうか？

そんなことをしたら、「馬鹿にされる」「笑われる」「孤立する」「危ない」「嫌われる」「無理、絶対ムリ！」などグレムリンのオンパレード。頭の中の主人は自分なのか？グレムリンなのか？わからなくなってきます。もう完全に占拠されている可能性もあります。

では、どうやってこのグレムリンから頭の中を奪回すればいいのか？知りたいですか？では奪回作戦開始です。

## 作戦その1.

グレムリンに感謝する。(男性のグレムリンはプライドを求め、女性のグレムリンは安心を求めているいろいろ細かいことを助言してくれています。毎日一言、助言ありがとうございますと感謝の言葉を唱えるだけで、頭の中で叫びまくることをやめ、段々静かになってきます。)

## 作戦その2.

グレムリンに褒美をあげる。(ちょっとムリ目な事に挑戦して、成功したらグレムリンにご褒美をあげてください。美味しいものを一緒に食べるとか、一日旅行に出かけるとか、グレムリンを楽しませると、段々、応援してくれるようになってきます。)

## 作戦その3.

グレムリンと一体化する。(足を知る生き方、今を丁寧に生きる生き方で、生きるリズムを変えてみると、グレムリンから凶暴さが抜けてモグアイに変わり、アイデアと気づきが湧く最良のパートナーに変身します。トイレ掃除もグレムリンをモグアイに変えると、古くからの言い伝えで言われています。)

## 作戦その4.

グレムリンに別れを告げる。(本気で生きるということです。言葉で言うのは簡単ですが、このスイッチを自分から入れることが出来る人は、なかなかいないと思います。悲しいことですが、最愛の人をなくした瞬間、自分の死を覚悟した瞬間、大地震の瞬間、誰かが事故に巻き込まれて救出しなければならない瞬間、子供がプールで溺れそうになった瞬間、もう手持ちのお金が底をついて働かざるを得なくなった瞬間、恋人に振られて自分の不甲斐なさが身にしみた瞬間、休みで家で寝てたら、モーターが焼損したという連絡が入り、ここはテクアが行かないと巨大工場が停止してしまう！と一肌脱いだ、こういう瞬間に、実は、グレムリンの方から自然と去っていきます。)

**「あなたの本気を見せていただいて感激です。もう私の出る幕はありません。安心しました。主人公様さようなら」**  
と喜んで喜んで去っていきます。

ちなみに、グレムリンが頭の中に存在していない状態の人を見てみたかったら、映画「ブラック・レイン」の松田優作さんを是非観てみてください。神様に献上する最期の一刀彫として、御自分の芝居を仕上げている感じがします。

死を覚悟した本気のオーラが伝わってきます。あの眼光はハリウッド史上最高の輝きだったと思います。

しかしながら、作戦1~4に優劣はありません。本気が必ずしも幸せとは結びつかないのが、人間世界の味わい深いところではないでしょうか？戦時中の思想統制の中では、グレムリンの入る隙間もなかったでしょうから、グレムリンだったり、モグアイだったりできるということは、頭の中がある意味、平和でないといけないことですから、グレムリンは平和の使者とも言えるのではないのでしょうか？

あ、今の話は、私の頭の中のグレムリンがしゃべった可能性があります(笑)。

グレムリンやモグアイが頭の中でいつもワイワイしていても、決めるところはしっかりと決める。

そしていつか、流木のような自分を、一刀彫として仕上げて献上しなくてはいけない、約束の日が近づいた時は、松田優作さんのように最期まで仕上げる。あの眼光が自分の理想です。

感謝! 羽原篤史

